

接着工法 弾性接着工法

マグネラインを中間接着材として塗布するだけで、新旧コンクリートの完全な一体化が可能になります。マグネラインは鉄とコンクリートの挙動に追従できる接着材です。

接着材として塗布後1週間以上のインターバルをあけて、コンクリートを打設しても良好な付着効果が得られることを確認しておりますので、型枠建込み時間を気にすることなく作業が出来ます。

特長

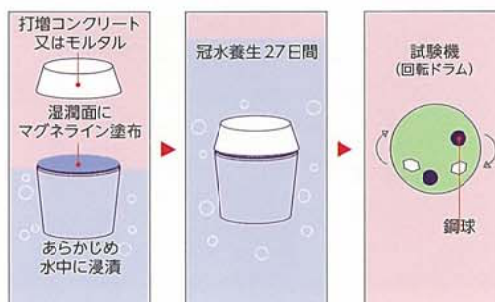
マグネラインの接着効果は、供試体がいかなる湿潤状態であろうと確実な接着ができます。また、他の接着材などと比較した「コンクリート接着材の比較試験」においてもマグネラインの接着性が極めて有利であることが確認されました。



1000回転後も接着界面からはく離なし

接着強度	1.5N/mm ² 以上
せん断付着強度	2.35N/mm ² 以上

【ロサンゼルス試験機によるマグネラインの接着試験】



素材	信頼性	施工性	安全性	経済性	総合評価
A	◎	○	○	◎ 11~13	10
B	×	△	△	◎ 11~13	5
C	×	△	△	◎ 10~12	5
D	△	△	△	◎ 11~13	6
E	△	△	△	◎ 11~13	6
F	△	○	○	○ 16~19	7
従来	◎	△	○	△ 18~22	7

A : マグネライン
 B~E : エポキシ樹脂
 F : 一般ポリマーモルタル
 従来 : コンクリート

総合評価は◎3点、○2点、△1点、×0点の合計
 経済性欄の数値の単位は千円/m²

施工事例

【御影石の接着事例】



【打継ぎ部の接着事例(塗布直後)】



【ポットホールの補修事例】



【打継ぎ部の施工完了後】

